

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次整備提案書



1 整備提案の概要

<p>整備提案名</p>	<p>地域のコミュニケーション基地 「うさきちハウス」づくり</p>
<p>整備提案の概要 (なにをどのように整備するのか簡潔にお書き下さい)</p>	<p>外遊び中心の片倉うさぎ山プレイパーク内に、プレイパーク活動をより充実させるため、また地域のさまざまな世代の人が集うことができるために地域の方々や子ども達と一緒に地域のコミュニティ形成の基地となる「施設」or「拠点」を建設します。計画、設計、構築、運営といったあらゆるプロセスで幅広い世代の人たちの協力を得、地域の交流の場としても開放し、プレイパーク活動でも活用します。</p>
<p>整備箇所の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住所 ・ 面積(わかれば) ・ 周辺の地図があれば張り込んでください <p>注1)</p>	<p>住所: 神奈川区片倉2-55</p> <p>面積:</p>

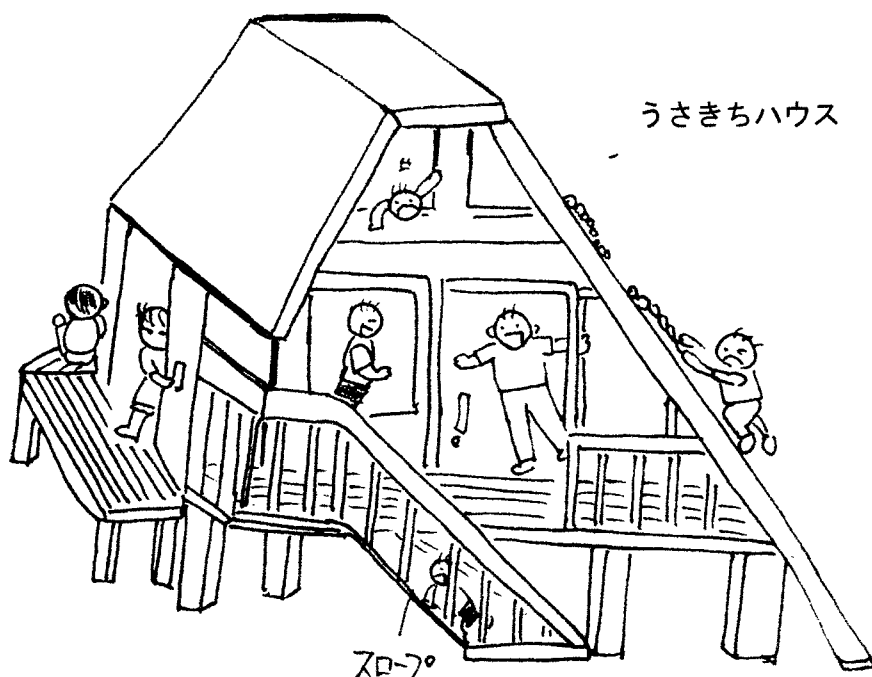
<p>整備の動機や背景</p>	<p>屋外のお遊び場であるプレイパークの活動には、赤ちゃんと母親を主体とした「子育て支援」も含まれ、その活動は天候に左右されることも少なくありません。不安な思いをもちながら子育てしている0歳児の母親達が、友達を求めて毎日親子で行く場所を探しています。プレイルームでの子育て相談の他、神奈川区では子育て支援事業「すくすく子がめ隊」と他区に比べて充実していますが、週に1度あるいは月に1度なので「出かけて行く場所が毎日あるといい」という母親達の意見を聞くことがよくあります。</p> <p>またプレイパークでは、公園であるため「歩けるようにならないと行きにくい」「雨が降ったらどうしよう」などの不安もあり、足を運びにくいようです。</p> <p>小さくても安心した屋内のスペースがあれば、他の親子と交流しながら外で遊ぶ年上の子どもたちを見て、親子ともども徐々に野外遊びができるようになります。また突然の雨などにも対応でき、着替えや簡単な食事がとれる場所であったり、子育てグループの学習の場であったり、と多様に使用することができます。</p> <p>このようなニーズがこれまでも利用者から多くあったので、屋内のスペースを創ることを望んでいました。</p> <p>事務所の機能として活用できれば、団体利用の受付や問い合わせなどにも対応でき、会議を行なうことができればスムーズな運営ができると考えられます。</p>
<p>地域ニーズや課題</p>	<p>プレイパークを囲む地域には町内会館がない(うさぎ山町内会・第一町内会・大丸町内会)ためそれぞれの町内会で集会所を求めています。また高齢者が多い地域であり、高齢者が気軽に外に出て行かれる環境を作りたいという課題もあります。様々な年代の方々の交流が図れるようコミュニティハウスを運営していきたいと思います。</p>

2 具体的な整備提案の内容

現況の様子を写真の張り込み等で示すとともに、具体的な整備提案の内容を文章やイメージスケッチ等でお書きください。

注1)

現況の様子



うさきちハウス 完成予定図

- | | |
|----------|--|
| ①オープンデッキ | 作業スペース |
| ②屋根 | 滑り台など遊具になる |
| ③屋根裏 | 見晴らしスペース |
| ④部屋 | 事務的スペース 4帖 フローリング
簡単な炊事場 コピー 書類保管倉庫等
多目的スペース 8帖
子育て支援や世代を超えた交流を行なう
医務室スペース 会議等 |
| ⑤土間 | 雨天時緊急用 あそびの場 (工作 ベーゴマ等) |
| ⑥いろり | お話し会 文化伝承等に効果
つどいの場 |

概算整備費： 600

万円 (参考)

3 整備提案の効果について

<p>整備されたものがどのような人たちに利用され、地域でどのように役立つと考えますか？</p>	<p>うさぎハウスは、乳幼児の親子にとってのコミュニケーションの場、また冒険心あふれる学童期には大きな遊具として、青年には情報を共有したり地域ボランティアの拠点として、子育てサークルの会議などと幅広い利用が考えられます。また高齢者の方から昔の遊びを教わるなど、子どもとの交流によって生き甲斐がもてる場にもなればよいと考えます。</p>
---	---

4 整備提案の実現性について

<p>整備箇所の地権者や建物所有者、地域組織（町内会・自治会等）への周知状況をお書き下さい。</p>	<p>片倉うさぎ山公園愛護会は、片倉連合自治会の会長をはじめ、体育指導員、青少年指導員、子ども会会長、老人会会長、主任児童委員、民生委員、近隣の小学校校長、PTA会長で組織されています。すでに各自治会会長には応募の件について伝えてあります。</p> <p>公園内に建物を設置したい旨については、環境創造局と調整が必要ですが「都市公園における民設民営型集会所設置に関する要綱」などのルールを踏まえ進めています。また神奈川区については、地域活動の活性化や子育て環境の充実につながることで、取り組みについて理解をいただいております。</p>
<p>整備提案を実現するために既に提案グループがもっている資源(ヒト、モノ、カネ)は何ですか？注2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人—会長が工務店に勤務。設計ができます。 地域に大工のスキルを有する人がいます。 ○ 物—神奈川県森林組合より丹沢の間伐材を入手できそうです。 プレイパーク活動の一環としてすでに木工の活動があるためチェーンソーのこぎり等工具が揃っています。 ○ 金—自治会から寄付を募ります。
<p>実現のために、もっと強化したいあるいは、新たに欲しい資源(ヒト、モノ、カネ)は何ですか？注3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人—ハウス作りに関わりたいと思う人を増やします。 ○ 物—たくさんの人の意志を聞き、施工の方法を検討します。 ○ 金—地域の企業や商店街に協力が得られよう検討します。
<p>施設整備や維持管理について、提案グループや地域住民等がどのように関わろうと考えていますか？</p>	<p>片倉うさぎ山公園あそび場管理運営委員会が地域や利用者の意見をまとめ、それをもとにプロフェッショナルに設計を依頼します。その後、地域のボランティアや遊びに来る子どもたちや親たちと一緒にハウス創りを完成させていきたいと思えます。一棟のハウス創りを通して、顔の見える地域関係を作りあげたいと考えています。</p> <p>完成後も、町内や地域の人、利用したい人たちが皆で協力して使用できるようあそび場管理運営委員会が調整し、プレイパーク活動がさらに充実できるように運営していきたいと思えます。</p>

5 特にPRしたい点

<p>提案内容や実施体制等について、特にPRしたい点があればお書き下さい。</p>	<p>片倉うさぎ山プレイパークは『子どもの育ちにそったあそび場』として 2001 年に行政と協働でつくった横浜市初めての冒険遊び場です。開園日には、子どもの遊び場環境をいきいきするためプレイリーダーが常駐しており、現在月に 12 回雨でも開園しています。5 年目を迎えた今では子どもだけではなく親や大人も新しい体験を求めて遊びに来るなど、地域の中で様々な人たちの顔が繋がりはじめられているので、地域の人材を活用していきます。</p>
---	--

6 事業スケジュール

1次コンテスト以降、提案の実現に向けて、提案グループが取り組むことについて、事業完了までご記入ください。

	取 り 組 み 内 容 (合意形成、第2次整備提案書づくりなど)
7月	1次コンテスト 公園内建設許可について検討
8月	環境創造局・区役所と うさきちハウス作りの検討会 地域に周知(近隣に説明する) 資金集めの打診(町内会・企業・商店街等)
9月	ワークショップへの協力者を検討 うさきちハウスわくわくプランづくり ワークショップ 2回 (場所・ハウス完成図づくり)
10月	ワークショップ後、来園者にヒヤリングをし、機能・デザイン等具体化する。 ワークショップ・ヒヤリングをもとに、設計を依頼 工事における費用算出 工事の計画手順検討 完成予想図作成等
11月	第2次整備提案書作成 うさきちハウスの維持管理の実施方法検討 第2次整備提案書提出 第2次コンテストのプレゼンテーションの準備
12月	2次コンテスト
2次コンテスト以降(設計期間、整備助成金交付申請時期、着手時期、工事期間、完了時期)	
平成 17年 12月	ワークショップの準備
1月	ヒヤリング
2月	設計期間 整備費積算内訳書作成 助成金交付申請時期
3月	着手時期
～平成 19年 3月	完了

片倉うさぎ山公園のあゆみ

初めは3つの

エリア...

- 舗装広場
- 樹林広場
- 草地広場

どんな公園がいいか。皆で意見を出し合う

新しい公園は市民の声を聞いて作ることもできる

大人がそれぞれの立場で何のできるのか、地域で支えていく公園として

こんな事したいなあ～遊びのメニューをカードにして

第4回ワークショップ(6/19)
公園の案を作る「遊びの地図」
公園の中に入りながら
気になるところを新しく付け加える

第3回ワークショップ(5/15)
3つのエリアで出来そうなこと
考えなくてはいけないことについて

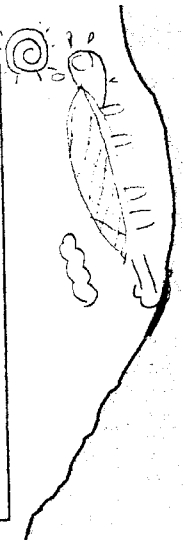
第2回ワークショップ(4/17)
子どもの遊びを考える会発足

☆公園予定地へ初見学(3/27)

図面を見ながらどこで何を、何が、できそうか、考えてみる

基盤整備工事の設計案

第5回ワークショップ(7/17)
子どもの遊び場の案をまとめる



＜講演・ディスカッション＞(5/18)
「自由な遊び場を公園に」
～今までになかった公園を～
～小池輝夫氏～
(緑政局建設課)

1999

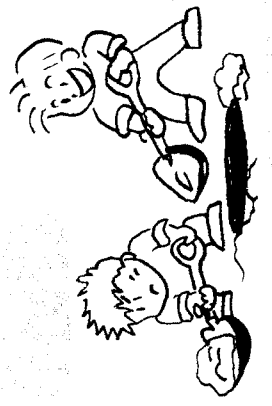
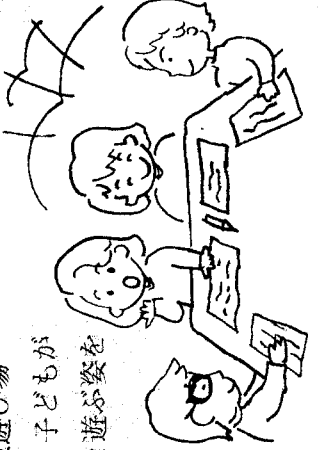
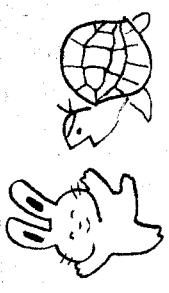
緑政局、区役所と初顔合わせ
地域へ計画説明

1月 「遊びを広げようピッピの会」と子ども会のお母さんと意見交換
～公園ができるまでに出来ること考えてみよう～

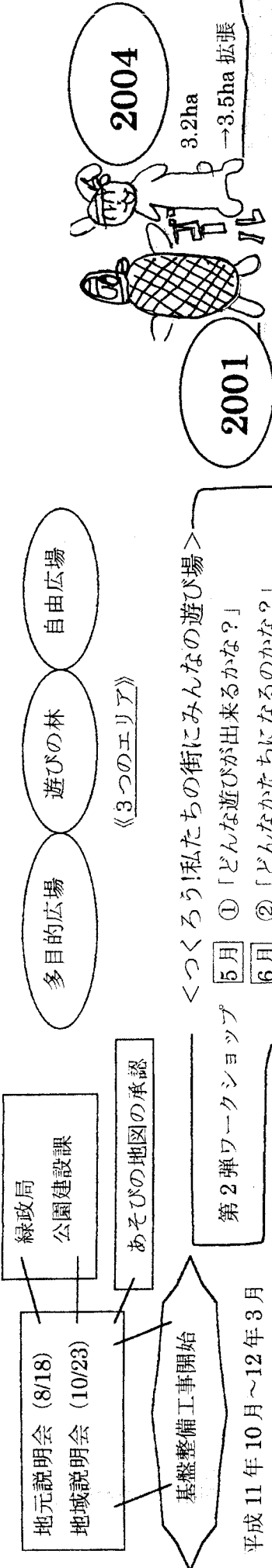
＜イベント＞7/25
公園予定地で感じてみよう見よう
・ 冒険遊び場体験と近隣住民意見交換会

＜学習会＞4/24
ビデオフォーラム
全国に広がる冒険遊び場のビデオを見て、子どもが自由に生き生きと遊ぶ姿を見る

1998 11月



＜あそび場づくり通信発行＞
☆ 話し合った意見をまとめて地域へ計画の進展などお知らせしていく



くつろろろ! 私たちの街にみんなの遊び場 >

5月 ①「どんな遊びが出来るかな?」
6月 ②「どんなかたちになるのかな?」
7月 ③「よし、つくろう。これでいってみよう」
地域説明会へ計画承認

施設整備方針作り

2000

・公園予定地で
遊んでみよう (1/8)

・公園管理運営準備会の発足 (2月)

施設工事開始

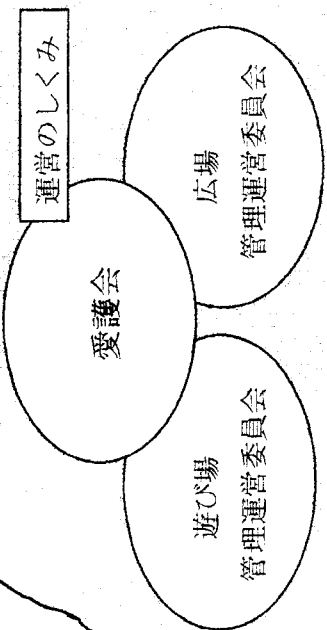
・夏を遊ぼう (7/23)

<連続講座> 6回
～遊び場づくりことはじめ～
神奈川県役所助成 生きがいキャッチアップ事業
幼児・学童期・青年期それぞれに
誰もが楽しめる場とは何かを学ぶ

<視察> 3/30
世田谷プレーパークへ見学
<講演会> 3/3

「遊びは生きる力の源」
羽根木プレーパーク初代プレリーダー
天野 秀昭氏

<学習会> 1/15
「これからの遊び場にもとめられるもの」
香蘭幼稚園主任 若月 芳浩先生



- ・近隣小学校に公園のシンボル
うさぎとカメのデザインを公募
→銅版でモニメントを作る
- ・オープニングの計画・企画を考える
- ・3部会それぞれの会則作り

・市長とのふれあいトーク (10/13)
神奈川県政推進課、企画調整係による推薦
故 高秀市長と
～世代を超えてみんなが
楽しめる公園づくり～

・「片倉うさぎ山公園」に命名 (10月)
～21世紀へ“時代を繋ぐ公園”として
名称申請

<プレリーダー育成講座> 3回
～横浜にもプレリーダーを～
協力: 冒険遊び場情報室 (現: NPO)